

朝大学のまちづくりや、地域と連携した 取り組みが高い評価を受けました

2012年度

グッドデザイン賞 GOOD DESIGN

■主催：公益財団法人日本デザイン振興会



丸の内朝大学は、2012年度グッドデザイン賞において、「グッドデザイン・ベスト100」の中から選ばれる特別賞「グッドデザイン・地域づくりデザイン賞」（日本商工会議所会頭賞）を受賞しました。

グッドデザイン・地域づくりデザイン賞は、「豊かでゆとりのある国民生活の実現、地域経済の活性化、社会一般の福祉の増進等、わが国経済・社会の発展に寄与するもの」に贈られる賞です。

11月25日にグッドデザインエキシビジョン会場にて行われた発表では、「朝に学びたいという人々の気持ちを実現

したことでコミュニティが自然に広がった。非常に力強い起案がある。デザインの概念を大きく良い方向に変え、リードしている」（深澤直人審査委員長）、「人にきちんと伝わるか、どのように感じるかという視点でデザインをマネジメントしている。デザインが地域づくりにも大切であることを考えさせてくれる象徴的な活動」（佐藤卓審査副委員長）というコメントをいただきました。

丸の内朝大学では、今回の受賞を力に、大手町・丸の内・有楽町地区のまちづくり、さらに日本、世界各地に寄与するべく、今後も積極的に活動を行なっていきます。

日本のコ・クリエーション アワード 2012



■主催：cotas（運営：株式会社インフォバーン、株式会社電通）



2012年夏学期に開講した「地域プロデューサークラス 富山編」から生まれた「多手山プロジェクト」が、「日本のコ・クリエーションアワード 2012」において「ベスト・ケース・スタディ」に選ばれました。

この賞は、オープンイノベーション情報ウェブメディア「cotas（コタス）」で開催。先進的かつイノベティブで新しい価値づくりを促進する、すぐれた共創事例5つが「ベスト・ケース・スタディ」として選定されたものです。「多手山プロジェクト」は、クラス終了後に、行政や地域の人々と連携して企画を実現させた点などが、「都市と地方、プロと素人、行政と民間、による共創の好事例」として高く評価されました。